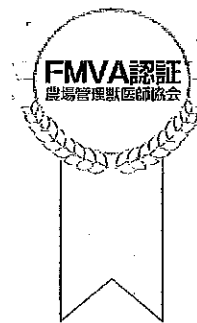


獣医師が認めた牛肉 「FMVA認証牛」の 本格販売がスタート!



本誌編集部

はじめに

平成20年12月5日、東京都府中市の食品スーパー(株)さくらコマースにて「農場管理獣医師協会 (FMVA) 認証牛」の定期販売が開始された。FMVA認証牛といっても読者の皆さんには耳慣れない言葉かと思うが、ごく簡単に言うと「獣医さんが認めた牛肉」ということ。この仕組みを作り上げたのは、平成19年5月に設立された「農場管理獣医師協会」(北村直人会長。以下、FMVAと表記)で、FMVA認証牛はこれまでも埼玉県熊谷市のホテルで提供されていたが、一般のスーパーで本格的に定期販売されるのは今回が初めてとなる。

FMVAの理念や取り組みの詳細は、本誌平成19年6月号76頁より、同協会事務局の中村陽二氏にご執筆いただいているので、そちらを参照していただくとして、ここではまず簡単にFMVA認証牛の仕組みに触れ、さらに今回どのようにして販売まで至ったかのかをご紹介します。



FMVAの北村直人会長

FMVA認証牛とは?

FMVA認証牛とは、指定の農場の生産牛で、給与飼料や投薬の情報が蓄積されており、農場管理獣医師が健康と認めた牛肉のことで、認証牛には写真1のような証明書が発行される。この証明書はFMVAのホームページ (<http://www.svr.3sdbn.com/fmva/>) で個体識別番号を検索すると閲覧できるほか、同ホームページには指定農場の情報がかかなり詳細まで記載されている。

ちなみに現在の指定農場は、群馬県と埼玉県の生産者(主にF1肥育)からなる「21世紀肉牛研究会」のメンバーが中心である。同研究会は県の認定農業者システムあるいはHACCPシステムへの対応が可能なこと、そしてなによりも牛が大好きなことを入会条件としており、その名称は「21世紀の中頃には一流のブランドとして認められるようになりたい」という思いに由来している。若いメンバーが多く、生産者同士でノウハウの交流をするなどまとまり良く、今回の初売りにも生産者自ら法被を着て売り場に出るなど意欲的である。そもそもFMVAの取り組みも、研究会の生産者

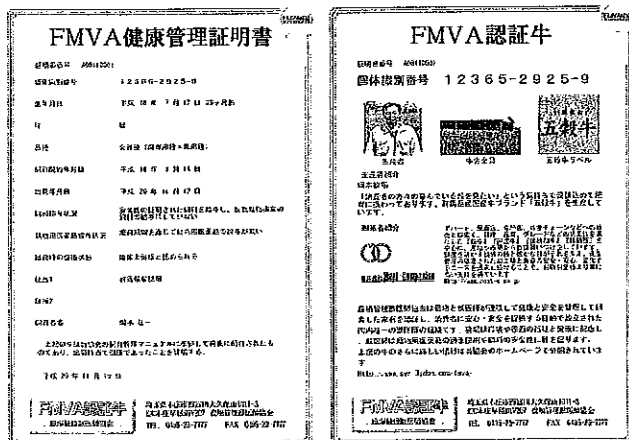


写真1 FMVA認証牛の証明書。これは12月5日に販売された牛肉のもの

が獣医師に「どうにかして消費者に安全・安心を伝える仕組みが作れないのか」と相談したことを切っ掛けに始まったという。

健康な牛を分かりやすい形で

さて、FMVA認証牛の一番の特徴は「実際に牛を看ている獣医さんが太鼓判を押す」という分かりやすさにある。消費者に牛肉の安全・安心を呼びかけるとき、科学的知見云々といった言葉で理解してもらうのはなかなか難しいが、獣医さんが健康と認めたとなれば明快だ。つまりFMVA認証牛のねらいは、「消費者に牛肉の安全性を分かりやすく伝え、生産者の努力を知ってもらう」ことにある。

とはいえ、いくら生産者と獣医師が理念を謳っても、消費者に食べてもらえなければ意味がない。FMVAの北村会長も「生産者と獣医師だけでは独り相撲。消費者に売っていただいて、それを理解していただいて初めてものになる。FMVA認証牛は、販売時に自信を持って安全だといえる動機付けとして、しかも消費者がスッと理解できるような形でやっつけよう」と語る。そのような中で定期的な販売が実現した背景には、理解ある卸業者と販売店の存在が不可欠であった。

今回、FMVA認証牛とさくらコマースを結び付けたのは、卸業者の「(株)ミートコンパニオン」(本社:東京都立川市)である。同社は安全・安心な商品の提供をモットーとしており、21世紀肉牛研究会のメンバーによる銘柄「彩さい牛」(埼玉県)、「五穀牛」(群馬県)を、顔の見える牛肉として直接取引で扱ってきた。同社がFMVA認証牛の試みを知ったのは数年前で、以来方々に提案してきたが「健康な牛を販売するのは当たり前」としてなかなか取り合ってもらえなかったという。そのような中で、以前から五穀牛の販売を行っていたさくらコマースに提案したところ快諾、販売に至ったのである。これについてさくらコマース担当者は「五穀牛でも安全・安心を謳っていたが、FMVAによってプロがお墨付きを与えることで、より一層五穀牛を伸ばせると感じた」と語っている。

なおFMVA認証を付けたからといって価格の上乗せはない。従来通りの価格、消費者が手に取りやすい価格で提供していることも、この取り組みの特徴といえるだろう。



初日の売れ行きは好調。写真左の笑顔の男性たちは生産者、右のスーツ姿の男性はミートコンパニオン国産ビーフ課の小峰大課長。足を止めて牛肉の説明を聞く消費者の多さが印象的だった

おわりに

販売当日、FMVAの獣医師、ミートコンパニオン、さらには生産者までもが一緒になって、さくらコマースの精肉売り場でFMVA認証牛をPRした。直接話しかけられるとほとんどの消費者が足を止めて耳を傾け、商品を買物かごに入れていく。初日の売れ行きは好調だったように見えた。

BSE以来、顔の見える牛肉生産という言葉が聞かれ、トレーサビリティにより情報がオープンになった。しかし生産者の思いが末端まで届いているわけではない。そのなかで今回のFMVA認証牛の定期販売は、生産者・獣医師・卸業者・販売店が非常によい関係を築き、思いが途切れることなく消費者の元まで届けられている貴重な事例といえるだろう。(荒木 太郎)

◎FMVA認証牛に関するお問い合わせは

「農場管理獣医師協会」まで

〒367-0035 埼玉県本庄市西富田大久保山1011-3

IOC本庄早稲田V207

TEL・FAX: 0495-23-7777

メール: bwz15489@nifty.com

ホームページ: <http://www.svr.3sdbn.com/fmva/>

svret1@yahoo.co.jp